

答え合わせ・解説

問1	答え 4 地頭	地頭は、荘園や公領において年貢の取りまとめや土地の管理を行いました。また、治安維持や裁判の補助を行う警察的な役割も担うようになり、次第に現地の武士として強い権力を持つようになりました。
問2	答え 2 軍役	軍役は、御家人が「奉公」として果たさなければならない主要な義務です。戦が起きた際に手勢を率いて駆けつけたり、京都や鎌倉の警備に当たったりすることが求められました。これは御恩に対する見返りであり、御家人の家格や領地の広さに応じて課されることが一般的でした。
問3	答え 4 親鸞	親鸞は、自らの修行ではなく、阿弥陀仏の救いを純粹に信じることを強調しました。彼は妻帯（結婚）を許可するなど、当時の常識を打ち破る革新的な行動をとり、民衆の生活に入り込むような布教を行いました。これが「浄土真宗」として大成し、多くの信徒を惹きつけました。
問4	答え 1 平家物語	平家物語は、平清盛をはじめとする平氏一族の栄華とその滅亡を描いた文学作品です。「祇園精舎の鐘の声…」という有名な書き出しで始まり、武士の戦いぶりや人生のはかなさが強調されています。文字が読めない人も多かった当時、琵琶法師が日本全国を回り、琵琶の伴奏とともに節をつけて語ることで広く普及しました。
問5	答え 4 石築地	執権・北条時宗は、博多湾の海岸線に沿って高さ約2メートルにも及ぶ石の壁、石築地（元寇防壁）を築かせました。これは騎馬武者が元軍の上陸を食い止めるための強固な障壁として機能し、後にくる元軍の再襲来（弘安の役）で大きな効果を発揮しました。
問6	答え 4 地頭	地頭は、御家人の中から任命され、土地の管理や年貢の徴収を行いました。単なる管理役にとどまらず、次第にその土地での権力を強めていき、武士の地方支配の拠点となりました。特に承久の乱の後、幕府が地頭を全国の荘園や公領に配置したことで、幕府の統治範囲が飛躍的に拡大しました。
問7	答え 1 1221年	1221年、後鳥羽上皇が中心となって起こしたのが承久の乱です。これに対し、幕府は北条政子の演説で御家人を結束させ、京都へ軍勢を送りました。幕府軍の勝利は、それまで優位であった朝廷が武家に完全に屈服したことを意味しました。
問8	答え 1 ヨーロッパ東部	モンゴル帝国の支配はアジアにとどまらず、西へ大きく拡大しました。中央アジアを経て、東ヨーロッパにまで達しました。これにより、ユーラシア大陸の東西をつなぐ広大な支配圏が確立されました。
問9	答え 3 文永の役	1274年の文永の役と、1281年の弘安の役の2度、元軍が九州北部に襲来しました。元軍は火器などを用いた集団戦法で攻めてきましたが、御家人たちの奮戦や、暴風雨の影響もあり、幕府はこれを退けることに成功しました。
問10	答え 4 源義経	源義経は、一ノ谷の戦いや屋島の戦いなど、数々の戦いで創意工夫を凝らした戦術を用いて平氏を追い詰めました。最終的な決戦となった壇ノ浦の戦いにおいても、巧みな指揮で源氏の勝利を決定づけました。その武勇は伝説化され、日本で最も有名な英雄の一人となりました。
問11	答え 3 鎌倉文化	鎌倉文化は、武士の気風や、新しく起こった仏教の影響を受けています。彫刻では写実的で力強い表現が、文学では『平家物語』のような軍記物語が人々に親しまれました。また、禅宗の影響を受けて、簡素で力強い美意識が確立されたのも大きな特徴です。
問12	答え 2 御家人	御家人は、将軍から領地を安堵される「御恩」を受ける代わりに、戦時の軍役や京都・鎌倉の警備といった「奉公」を義務付けられました。彼らは幕府の制度を支える重要な存在であり、北条氏などの有力御家人は幕府の政治運営においても中核を担いました。
問13	答え 4 六波羅探題	幕府は京都に「六波羅探題」を設置しました。これは朝廷や西国の武士を監視し、京都周辺の治安維持や裁判を行うための重要な出先機関でした。
問14	答え 4 御恩	「御恩」とは、将軍が御家人に対して本領の安堵（土地の支配権を認めること）や、新しい領地の供与を行うことです。これに対して御家人は「奉公」という軍役や警備の義務を負いました。
問15	答え 4 力強さ	「力強さ」とは、鎌倉文化を象徴するキーワードです。武士の生活や気風を反映し、華やかな貴族文化とは対照的に、写実的で現実味のある表現が好まれました。
問16	答え 2 随筆	随筆（エッセイ）は、決まった形式に縛られず、個人の内面や世の中に対する洞察を記すものです。鎌倉時代には吉田兼好の『徒然草』が、平安時代の清少納言の『枕草子』と並ぶ代表的な随筆として知られます。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 承久の乱	1221年、後鳥羽上皇は幕府を倒すよう命じましたが、北条政子の演説で結束した幕府軍が京都へ進軍し、朝廷軍を撃破しました。この勝利により、幕府の権力は決定的なものとなりました。
問2	答え 3 北条氏	承久の乱が起こると、執権・北条義時のもとで幕府軍は京都へ進撃しました。北条政子の演説で御家人を鼓舞し、勝利を収めたことで、全国的な支配体制が確固たるものになりました。
問3	答え 2 問注所	問注所は、鎌倉幕府の中央機関の一つで、主に御家人の訴訟や裁判、書類の管理を担当しました。侍所が軍事・警察を、政所が一般政務を担当したのに対し、問注所は法律に基づく冷静な判断を行う機関として、幕府の権威を高める役割を果たしました。
問4	答え 4 武士社会の慣習	それまで武士の間で行われてきた「武士社会の慣習」を基に、裁判の基準が文章化されました。それ以前の京都の朝廷が用いていた律令は、貴族社会には適しているが、土地に執着する武士の日常的な紛争を解決するには複雑すぎました。そのため、公平で分かりやすいルールが求められたのです。
問5	答え 3 鎌倉文化	鎌倉文化は、武士の気風や、新しく起こった仏教の影響を受けています。彫刻では写実的で力強い表現が、文学では『平家物語』のような軍記物語が人々に親しまれました。また、禅宗の影響を受けて、簡素で力強い美意識が確立されたのも大きな特徴です。
問6	答え 3 貞永式目	この時に制定された法律は「御成敗式目」として知られていますが、制定された年号をとって「貞永式目」とも呼ばれます。貴族の慣習ではなく、武士たちの間に蓄積されてきた慣習を尊重したのが特徴で、武士だけでなく、当時領地を管理する上で法的保護を必要としていた人々にとっても重要な指針となりました。
問7	答え 4 石築地	執権・北条時宗は、博多湾の海岸線に沿って高さ約2メートルにも及ぶ石の壁、石築地（元寇防塁）を築かせました。これは騎馬武者が元軍の上陸を食い止めるための強固な障壁として機能し、後にくる元軍の再襲来（弘安の役）で大きな効果を発揮しました。
問8	答え 3 浄土	浄土とは、阿弥陀仏が治める、迷いや苦しみから解放された極楽世界のことを指します。法然は、この浄土へ生まれ変わることを願い、ひたすら念仏を唱えることが重要だと説きました。この信仰は、現世の不平等に苦しむ人々にとって、唯一の救いとしての意義を持っていました。
問9	答え 1 後鳥羽上皇	後鳥羽上皇は、北条義時追討の院宣を出し、倒幕を試みました。しかし、北条政子の演説により結束を強めた幕府軍の反撃にあい、上皇側は敗北しました。
問10	答え 3 御恩	御恩とは、将軍が御家人に対して行う経済的・地味的な保護のことです。主なものとして、先祖伝来の土地の所有を認める「本領安堵」や、手柄を立てた者への「新恩給与」がありました。これに対し、御家人は軍役（戦いの際の兵士としての務め）や京都・鎌倉の警備などの奉公を果たす必要がありました。
問11	答え 2 マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロはベネチアの商人・旅行家で、元のフビライ・ハンに長く仕えました。帰国後に執筆した『東方見聞録』の中で、日本を「黄金の国ジパング」として紹介しました。これを見たヨーロッパの人々は、海路によるアジアへの関心を高めることとなりました。
問12	答え 4 鎌倉時代	十字軍が始まった1095年は日本で院政期（平安時代末期）にあたりますが、戦いが本格化した12世紀から13世紀にかけては、ちょうど鎌倉幕府が成立し、発展していく時期にあたります。
問13	答え 2 防塁	防塁（石築地）は、博多湾岸に長さ約20kmにわたって築かれた石の壁です。これにより、元軍の得意とする騎馬戦術や集団行動を封じ込め、日本軍が待ち伏せや遠距離からの弓矢攻撃を行いやすい環境を作りました。鎌倉幕府の組織力と御家人の動員力が発揮された代表的な防衛事業です。
問14	答え 4 地頭	地頭は、荘園や公領において年貢の取りまとめや土地の管理を行いました。また、治安維持や裁判の補助を行う警察的な役割も担うようになり、次第に現地の武士として強い権力を持つようになりました。
問15	答え 3 祇園精舎の鐘の声	『平家物語』は、この冒頭のフレーズが示す通り、栄えたものも必ず衰えるという「諸行無常」の思想を根本に置いています。鎌倉時代に成立したこの物語は、個人の生きざまや戦の悲哀を鮮明に描き、当時の文学としての到達点を示しました。
問16	答え 3 後鳥羽上皇	1221年、上皇は全国の武士に対して幕府討伐の院宣を出し、挙兵しました。これが「承久の乱」です。しかし、北条政子らの主導により幕府軍が迅速に対応したため、朝廷側は敗北しました。その結果、首謀者である後鳥羽上皇は隠岐へ流されることとなりました。

問1 東大寺南大門に安置されており、運慶と快慶らによって制作された力強い木造彫刻を何という？

1. 金剛力士像 2. 阿弥陀如来像 3. 釈迦如来像 4. 十一面観音像

問2 将軍と御家人の関係において、御家人が果たすべき最も重要な任務の一つである、戦いに参加する義務を何という？

1. 公事 2. 夫役 3. 番役 4. 軍役

問3 『平家物語』を琵琶を弾きながら語り歩き、物語を全国に広めた人を何という？

1. 絵師 2. 勧進聖 3. 連歌師 4. 琵琶法師

問4 鎌倉時代の力強い武士の気風を反映し、東大寺南大門に安置されている、運慶らによって作られた有名な彫刻を何という？

1. 釈迦如来像 2. 金剛力士像 3. 観音菩薩像 4. 阿弥陀如来像

問5 元軍の襲来に備えて、鎌倉幕府が九州北部の海岸に築いた石造りの防衛線を何という？

1. 防塁 2. 屯所 3. 寄合 4. 番役

問6 『方丈記』において、乱世の出来事を通じて描かれた仏教的な思想を何という？

1. 浄土信仰 2. 無常観 3. 末法思想 4. 現世利益

問7 日蓮が人々の救いとなることを推奨した「南無妙法蓮華経」という言葉を何という？

1. 題目 2. 回向 3. 他力 4. 禅定

問8 琵琶法師によって語り継がれた、平氏一族の栄枯盛衰を描いた軍記物語を何という？

1. 徒然草 2. 平家物語 3. 方丈記 4. 古今和歌集

問9 浄土真宗で重要視された、自分の修行力ではなく、阿弥陀仏の力によって救われるという考え方を何という？

1. 自力本願 2. 悪人正機 3. 他力本願 4. 即身成仏

問10 鎌倉時代に日蓮が唱えた「題目を唱えるだけで救われる」という教えにより、支持を集めた対象となった人々を何という？

1. 武士 2. 民衆 3. 貴族 4. 公家

問11 元寇の際、防衛のために石築地が築かれた現在の福岡県にある湾を何という？

1. 鎌倉 2. 壇ノ浦 3. 博多湾 4. 大宰府

問12 法然が掲げた、ただ念仏を唱えるだけで救われるという教えを何という？

1. 専修念仏 2. 護国信仰 3. 唱題 4. 座禅

問13 平安時代から存在した私有地で、その地からの収穫を主な収入源とした土地のことを何という？

1. 国衙領 2. 公領 3. 屯倉 4. 荘園

問14 鎌倉時代、執権の北条泰時が制定した法律を何という？

1. 1192 2. 1185 3. 1333 4. 1232

問15 時宗の僧である一遍が、念仏を唱えながら踊ることで信仰を広めた形式を何という？

1. 唱題 2. 座禅 3. 踊り念仏 4. 念仏

問16 浄土真宗を開き、阿弥陀仏の力を信じる教えを説いた僧は誰？

1. 一遍 2. 蓮如 3. 法然 4. 親鸞

答え合わせ・解説

問1	答え 1 金剛力士像	金剛力士像は、阿形（あぎょう）と吽形（うんぎょう）の二体で構成される巨大な仏像です。寄木造という技術を用い、筋肉の盛り上がりや表情に至るまで、極めて現実的で力強い表現がなされています。これは当時の武士たちの気風を反映したもので、鎌倉文化の代表作です。
問2	答え 4 軍役	御家人の重要な義務が軍役です。これは將軍から命じられた戦場に馳せ参じ、自ら武具を揃えて戦う義務のことです。これに加え、京や鎌倉を警備する番役などの奉公がありました。これらを通じて、御家人は自分の領地を守り、主君からさらなる恩賞を得ることを目指しました。
問3	答え 4 琵琶法師	琵琶法師は、琵琶の音色に合わせて、平氏の栄華と滅亡をドラマチックに語り伝えました。彼らが語る物語は、合戦の様子や英雄たちの活躍を生き生きと描き出したため、武士だけでなく、一般の民衆の間でも熱狂的に受け入れられました。
問4	答え 2 金剛力士像	東大寺南大門に安置されている金剛力士像は、運慶や快慶らによって作られました。筋肉の隆起や力強い表情など、非常に写実的かつダイナミックな表現が特徴であり、当時の力強い武士の精神性が彫刻にも表れています。
問5	答え 1 防塁	博多湾の沿岸などに高さ約2メートルの石垣を築き、元軍の上陸を阻止するための備えとしました。この石垣を石築地（いしつじ）とも呼びます。
問6	答え 2 無常観	無常観とは、この世のすべての存在は常に変化し、永遠に続くものはないという仏教の教えです。鴨長明は『方丈記』の中で、京都の大火や地震などの惨禍を描き出し、人間の力ではどうしようもない儚さを無常観として表現しました。
問7	答え 1 題目	日蓮は『法華経』の功德を信じ、その題目である「南無妙法蓮華経」と唱えることこそが、最も確実な救済の手段であると説きました。これを「唱題（しょうだい）」と呼びます。
問8	答え 2 平家物語	『平家物語』は、平清盛をはじめとする平氏一族の栄華と、源氏との戦いによる滅亡を描いた作品です。「祇園精舎の鐘の声」という有名な一節にあるように、世の中の無常さを説く「無常観」が根底に流れています。
問9	答え 3 他力本願	他力本願は、自分の力で行う修行（自力）に頼るのではなく、すべてを阿弥陀仏の力（他力）に任せて救いを求める考え方です。親鸞はこの姿勢こそが真の信仰であると説き、出家せずにただ念仏を唱えるだけで救われる道を提示しました。
問10	答え 2 民衆	日蓮の教えは、難しい書物を読まなくても「南無妙法蓮華経」と唱えるだけで良いというものでした。この分かりやすさと、社会の悪を鋭く批判する日蓮の態度は、日々の生活に苦しむ民衆に強く支持されました。この支持によって、鎌倉新仏教は急速に広まりました。
問11	答え 3 博多湾	博多湾は、元軍の主要な上陸地点となりました。二度目の襲来（弘安の役）に備え、幕府は博多湾岸に「石築地（防塁）」を築かせ、元軍の騎馬隊が上陸するのを防ぐとともに、日本軍が弓矢で戦いやすいような工夫をしました。この防衛線の強固さが、元軍の上陸を阻む大きな要因となりました。
問12	答え 1 専修念仏	専修念仏は、複雑な修行や学問を必要とせず、ただ「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えるだけで、阿弥陀仏の救いを受けて浄土へ往生できるという教えです。法然によって提唱されたこの思想は、難しい修行ができない庶民にも広く理解されました。
問13	答え 4 荘園	荘園は、中央の有力者が支配する広大な土地です。土地からの収穫物である「年貢」を領主に納めることで成り立っていました。鎌倉時代には、この荘園に地頭が送り込まれたことで、元の持ち主である領主と地頭との間で支配権をめぐる対立が絶えなくなりました。
問14	答え 4 1232	この法律は、それまでの習慣を基礎とし、武士社会の道理に基づいて裁判を行うための基準を明確にしたものです。これにより、幕府による全国的な裁判の公平性が保たれるようになりました。
問15	答え 3 踊り念仏	「踊り念仏」は、楽器の音に合わせて歌い踊りながら念仏を唱えるという、非常に活動的な布教の形です。視覚的・聴覚的に人々に訴えかけるこの方法は、当時の民衆にとって非常に魅力的でした。
問16	答え 4 親鸞	親鸞は、自らの修行ではなく、阿弥陀仏の救いを純粋に信じることを強調しました。彼は妻帯（結婚）を許可するなど、当時の常識を打ち破る革新的な行動をとり、民衆の生活に入り込むような布教を行いました。これが「浄土真宗」として大成し、多くの信徒を惹きつけました。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 御恩	御恩とは、将軍が御家人に対して行う経済的・地位的な保護のことです。主なものとして、先祖伝来の土地の所有を認める「本領安堵」や、手柄を立てた者への「新恩給与」がありました。これに対し、御家人は軍役（戦いの際の兵士としての務め）や京都・鎌倉の警備などの奉公を果たす必要がありました。
問2	答え 2 厳格	鎌倉時代の武士は、富や権力を誇示するよりも、質素で厳格な生活を送り、主君に対する絶対的な忠誠を誓うことを美徳としました。この精神性は、仏教の禅宗の普及とも結びつき、武士社会における倫理規範として定着しました。
問3	答え 1 元軍	元軍は、モンゴル人を中心に、支配下の漢人や高麗人などを加えた巨大な連合軍でした。火薬を使った「てつほう」などの兵器を使い、集団で組織的に戦う戦法をとったため、個人の武勇を競う当時の武士たちを苦しめました。
問4	答え 4 1185年	1185年は、壇ノ浦の戦いで平氏が滅亡した年です。この年、源頼朝は朝廷から守護・地頭の設置権を認めさせ、全国的な支配力を強めました。これにより、貴族中心の政治から、武士が政治の主導権を握る中世社会への移行が決定づけられました。
問5	答え 2 承元の法難	1207年、法然の門弟が起こしたトラブルをきっかけに、旧仏教勢力は朝廷に働きかけました。その結果、法然は承元の法難によって讃岐（現在の香川県）へ流罪となり、多くの弟子も処分されました。これは、新しい教えと古い既得権益側の間の対立が深刻化した事件でした。
問6	答え 1 北条時宗	北条時宗は鎌倉幕府の第8代執権です。元からの服属要求に対し、使者を処刑するという強硬な姿勢をとりました。1274年の文永の役、1281年の弘安の役の際には、自ら指揮を執り、防塁の建設や御家人への動員命令を通じて国家の危機を救いました。
問7	答え 4 軍役	御家人の重要な義務が軍役です。これは将軍から命じられた戦場に馳せ参じ、自ら武具を揃えて戦う義務のことです。これに加え、京や鎌倉を警備する番役などの奉公がありました。これらを通じて、御家人は自分の領地を守り、主君からさらなる恩賞を得ることを目指しました。
問8	答え 2 守護・地頭	頼朝は、朝廷の許可を得て、各国に「守護」を、荘園や公領ごとに「地頭」を置きました。守護は軍事・警察・徴税などを指揮し、地頭は土地の管理や年貢の取り立てを行いました。これにより、全国的な武家による支配体制が整いました。
問9	答え 1 御家人	彼らは平時の警備や戦時の戦闘を担う、幕府の軍事的基盤でした。元軍との戦いにおいては、少人数での一騎打ちを重んじるこれまでの戦い方とは異なり、集団で組織的に攻めてくる元軍に対して非常に苦戦を強いられました。
問10	答え 2 鎌倉幕府	鎌倉幕府は「御恩と奉公」という主従関係を基盤に、地頭や守護を配置して日本全国の武士を統制しました。13世紀後半に元からの脅威にさらされた際、執権の北条時宗のもとで二度にわたる侵攻（元寇）を撃退しました。
問11	答え 3 一遍	一遍は全国を旅しながら、念仏を唱えて踊る「踊り念仏」を行うことで、阿弥陀仏の教えを広めました。彼が始めた宗派は時宗と呼ばれ、身分に関係なく多くの民衆から支持を集めました。
問12	答え 3 後鳥羽上皇	1221年、上皇は全国の武士に対して幕府討伐の院宣を出し、挙兵しました。これが「承久の乱」です。しかし、北条政子らの主導により幕府軍が迅速に対応したため、朝廷側は敗北しました。その結果、首謀者である後鳥羽上皇は隠岐へ流されることとなりました。
問13	答え 2 元軍	執権である北条時宗は、この要求を拒否しました。その結果、元は二度にわたって日本へ大軍を送り込みました（文永・弘安の役）。時宗は御家人を指揮し、激しい防戦を行いました。元軍の高度な戦術や火器に苦戦しましたが、最終的に元軍は撤退しました。
問14	答え 4 マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロはヴェネツィア出身の商人であり、中央アジアを渡って元の都（大都）へ渡り、フビライ＝ハンに仕えました。帰国後に投獄された際、同房の人物に語り聞かせたアジアの記録が『東方見聞録』としてまとめられました。
問15	答え 1 金剛力士像	金剛力士像は、阿形（あぎょう）と吽形（うんぎょう）の二体で構成される巨大な仏像です。寄木造という技術を用い、筋肉の盛り上がりや表情に至るまで、極めて現実的で力強い表現がなされています。これは当時の武士たちの気風を反映したもので、鎌倉文化の代表作です。

問1 鎌倉時代に制定された、武士社会の決まりごとや裁判の基準を何という？

1. 寺院の戒律 2. 朝廷の古例 3. 公家の教養 4. 武士社会の慣習

問2 マルコ・ポーロが見聞をまとめて出版し、日本を「黄金の国ジパング」として紹介したことで知られる著書を何という？

1. 平家物語 2. 方丈記 3. 世界の記述（東方見聞録） 4. 源氏物語

問3 鎌倉時代、執権の北条泰時が制定した法律を何という？

1. 1192 2. 1185 3. 1333 4. 1232

問4 1281年にモンゴル帝国が二度目に日本へ襲来した戦いを何という？

1. 承久の乱 2. 弘安の役 3. 文永の役 4. 元寇

問5 鎌倉時代末期に、御家人の困窮や荘園制度の混乱の中で、幕府に従わず力で支配しようとした武士たちを何という？

1. 守護 2. 悪党 3. 御家人 4. 地頭

問6 鎌倉時代後半、分割相続によって領地が細分化し、経済的に苦しくなった状態を何という？

1. 分断 2. 困窮 3. 繁栄 4. 衰退

問7 元軍の再来に備えて、北条時宗が博多湾岸に築かせた防壁を何という？

1. 引付衆 2. 守護代 3. 検地帳 4. 石築地

問8 鎌倉幕府の将軍と主従関係を結び、御恩として所領を安堵された武士のことを何という？

1. 御家人 2. 御内人 3. 家人 4. 奉公人

問9 琵琶法師により、当時の人々に語り伝えられた鎌倉時代の軍記物語を何という？

1. 枕草子 2. 源氏物語 3. 方丈記 4. 平家物語

問10 『枕草子』や『方丈記』と並び、日本文学における重要な3つの随筆をまとめて何という？

1. 五街道 2. 三大随筆 3. 三都 4. 五畿七道

問11 イタリア出身の旅行家で、フビライ・ハンに仕え、日本を『黄金の国ジパング』としてヨーロッパに紹介したのは誰？

1. イブン・バトゥータ 2. マルコ・ポーロ 3. マテオ・リッチ 4. ザビエル

問12 鎌倉時代に臨済宗を日本に伝えた僧侶は誰？

1. 日蓮 2. 道元 3. 親鸞 4. 栄西

問13 法然が庶民に信仰を広めた、死後の安らかな世界を何という？

1. 解脱 2. 涅槃 3. 浄土 4. 極楽

問14 東大寺南大門に安置されている、力強い表現が特徴の金剛力士像を制作した仏師は誰？

1. 湛慶 2. 定朝 3. 快慶 4. 運慶

問15 鎌倉幕府において、将軍と主従関係を結び、軍事や行政の実務を担った武士を何という？

1. 公家 2. 御家人 3. 守護 4. 地頭

問16 13世紀にモンゴル帝国を築き、後に日本へ侵攻を企てた人物は誰？

1. チンギス・ハン 2. モンケ 3. オゴデイ 4. フビライ

答え合わせ・解説

問1	答え 4 武士社会の慣習	それまで武士の間で行われてきた「武士社会の慣習」を基に、裁判の基準が文章化されました。それ以前の京都の朝廷が用いていた律令は、貴族社会には適していても、土地に執着する武士の日常的な紛争を解決するには複雑すぎました。そのため、公平で分かりやすいルールが求められたのです。
問2	答え 3 世界の記述 (東方見聞録)	帰国後に獄中で語った内容が記録され、出版されたのが『世界の記述 (東方見聞録)』です。この書物には、当時の中国の繁栄や日本の富について書かれており、ヨーロッパの人々にアジアへの関心を抱かせました。
問3	答え 4 1232	この法律は、それまでの習慣を基礎とし、武士社会の道理に基づいて裁判を行うための基準を明確にしたものです。これにより、幕府による全国的な裁判の公平性が保たれるようになりました。
問4	答え 2 弘安の役	1281年、元軍は再び大軍を率いて九州へ攻め寄せました。これが弘安の役です。幕府は事前に築いていた防壁や備えによって防戦し、元軍の上陸を阻みました。また、暴風雨により元軍の船団が壊滅的な被害を受けたことで、幕府軍の勝利が確定しました。
問5	答え 2 悪党	「悪党」とは、当時の法や幕府の秩序に従わず、荘園の年貢を奪うなど実力行使を行う武士たちを指します。幕府は彼らを「悪党」と呼んで厳しく取り締まろうとしましたが、社会が不安定化する中では抑えきれませんでした。
問6	答え 2 困窮	限られた土地からの収穫だけでは、幕府への奉公や軍役の準備、生活費を賄うことが困難になり、多くの御家人が借金をして苦しい生活を送るようになりました。
問7	答え 4 石築地	執権・北条時宗は、博多湾の海岸線に沿って高さ約2メートルにも及ぶ石の壁、石築地 (元寇防壁) を築かせました。これは騎馬武者が元軍の上陸を食い止めるための強固な障壁として機能し、後にくる元軍の再襲来 (弘安の役) で大きな効果を発揮しました。
問8	答え 1 御家人	御家人は、将軍から領地の所有権を認められる「御恩」を受ける代わりに、京都や鎌倉の警備、合戦時の軍役といった「奉公」の義務を負いました。将軍と御家人の結びつきは「御恩と奉公」という主従関係で成り立っており、これが鎌倉幕府を支える強力なシステムでした。
問9	答え 4 平家物語	『平家物語』は、平氏の滅亡までの過程を力強く描き出した文学作品です。この物語は書物として読まれるだけでなく、琵琶法師と呼ばれる人々が全国を巡り、琵琶を奏でながら口頭で語り伝えることで広く庶民から武士まで浸透しました。その語りは「平曲」とも呼ばれ、独特の節回りで当時の人々の心を打ちました。
問10	答え 2 三大随筆	『枕草子』 (清少納言)、『方丈記』 (鴨長明)、『徒然草』 (吉田兼好) の3つを総称して「三大随筆」と呼びます。それぞれ平安時代中期、鎌倉時代初期、鎌倉時代末期に執筆されました。
問11	答え 2 マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロはベネチアの商人・旅行家で、元のフビライ・ハンに長く仕えました。帰国後に執筆した『東方見聞録』の中で、日本を「黄金の国ジパング」として紹介しました。これを見たヨーロッパの人々は、海路によるアジアへの関心を高めることとなりました。
問12	答え 4 栄西	栄西は二度中国へ渡り、そこで修行して帰国後に臨済宗を伝えました。彼は座禅によって悟りを開くことを説き、武士たちの間に広く支持されました。また、宋からお茶の種を持ち帰ったことでも有名です。
問13	答え 3 浄土	浄土とは、阿弥陀仏が治める、迷いや苦しみから解放された極楽世界のことを指します。法然は、この浄土へ生まれ変わることを願い、ひたすら念仏を唱えることが重要だと説きました。この信仰は、現世の不平等に苦しむ人々にとって、唯一の救いとしての意義を持っていました。
問14	答え 4 運慶	運慶は、それまでの仏像と異なり、筋肉の動きや表情の細部までリアルに表現する彫刻手法を確立しました。快慶らとともに制作した東大寺南大門の金剛力士像は、その写実的な表現の頂点といえます。この様式は、当時の人々に強い精神的なインパクトを与えました。
問15	答え 2 御家人	御家人は、将軍から領地を安堵される「御恩」を受ける代わりに、戦時の軍役や京都・鎌倉の警備といった「奉公」を義務付けられました。彼らは幕府の制度を支える重要な存在であり、北条氏などの有力御家人は幕府の政治運営において中核を担いました。
問16	答え 4 フビライ	第5代皇帝フビライ・ハーンは国号を「元」と改め、大都 (現在の北京) を拠点に東アジアの覇権を握ろうとしました。彼は日本に対しても外交使節を派遣して服属を求めましたが、幕府がこれを拒否したため、1274年の文永の役と1281年の弘安の役という2度の遠征軍を日本に送りました。